

課題は農業従事者の高齢化である。また、島の主要な農業の農繁期が10月～4月と重なるため、島内で労働力を確保することが困難な状況である。同事業を活用し、農繁期が異なる鹿児島県沖永良部島、北海道道南地域、京都府丹後地域で連携して、労働力を融通し合う協力体制の連携基盤を構築する。さらに地域農業の維持・発展に資する産地間連携のロールモデルとして、他産地・他産業にも連携を拡大していく方針である。

### 事業実施主体構成員

えらぶ島づくり事業協同組合（事業実施主体）、NPO法人やくも元気村（連携団体）、株式会社百章（連携団体）、小葉松真里（フリーランス農家）

### 協力機関・連携先等

海士町復業協同組合、智頭町復業協同組合、株式会社アグリナジカン、鹿児島大学、和泊町、知名町

### 設定した成果目標・目標に対する進捗状況

①産地の労働力需要に対する充足率：

	求人数	現状値（目標値）	充足率
鹿児島県沖永良部島	45人	43人（35人）	96%
北海道道南地域	29人	22人（20人）	76%
京都府丹後地域	22人	12人（13人）	55%

（令和7年2月末時点の途中経過）

## 令和6年度取組み内容

### 今年度の取組み内容

#### ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

馬鈴薯、花卉栽培、果樹、野菜、サトウキビなどの農業法人、個人事業主、農業協同組合にアンケートを実施。（15/15経営体回答）

労働力の特に必要な時期、不足人員、（品目と作業内容）について

1月：30人（馬鈴薯の収穫・選別、花卉収穫・選別・出荷、サトウキビ収穫）

2月：70人（馬鈴薯の収穫・選別、花卉収穫・選別・出荷、サトウキビ収穫）

3月：71人（馬鈴薯の収穫・選別、花卉収穫・選別・出荷、サトウキビ収穫）

4月：37人（馬鈴薯の収穫・選別）

10月：17人（馬鈴薯の種切り・植付け）

11月：18人（馬鈴薯の種切り・植付け）

12月：53人（馬鈴薯の種切り・植付け、花卉収穫・選別・出荷、サトウキビ収穫）

#### イ 産地内での労働力確保・育成

特になし

## 今年度の取組み内容

## ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

沖永良部島>北海道道南地域：2人

北海道道南地域>沖永良部島：0人

京都府丹後地域>沖永良部島：0人

<他産業と連携した労働力確保>

海士町復業協同組合>沖永良部島：1人

<委任契約からの労働力確保>

小葉松氏の求人募集からの採用：3人

## エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

各求人サイトからの採用人数を以下に明記する。

- ・SMOUT : 16名
- ・アグリナジカン : 5名
- ・あぐりナビ : 4名 (内1名は農業未経験のため補助対象外)

## オ 農業の「働き方改革」への取組

■「産地間連携報告会」として、農家と労働者が集いワークショップを通じて課題や今後の取組について情報共有し、啓蒙活動を行なった。

- ・産地間連携事業の取組についての概要説明
  - ・受入農家と労働者の本音や島で働いた感想
  - ・リピートしたくなる農園の特徴
- (令和6年11月と令和7年2月の2回開催し、計34名が参加)

■労働者を対象に就農終了後にアンケートを実施している。全ての労働者が就農を終了する5月末にアンケート結果を取りまとめ、6月以降に各農家にフィードバックを実施する。

## 本事業取組みにおける成果項目

- ・11農家の求人数45人に対して、現状値が43人で充足率96%と労働力不足解消につながった。
- ・農家が求める労働者について丁寧に聞き取りをし、面接を通じて厳しく審査してマッチングしたため、受入農家から労働者に対する評価が高く感謝された。
- ・労働者に定期的なフォローアップを通じて満足度が上がり、次年度以降もリピートしたいというコメントを多くもらった。
- ・農業の求人サイトである「アグリナジカン」と連携し、次年度以降も沖永良部島の魅力や農家の求人情報を掲載することで合意し、自産地に意欲の高い農業経験者を持続的に呼び込む仕組みが構築できた。

## 次年度以降の取組み内容

- ・特定技能外国人を雇用している農繁期の異なる農業法人や協同組合と連携し、自産地の繁忙期にまとめて転籍する産地間人材リレーの取組を実施していく。
- ・他産地の特定技能外国人を雇用している農業法人や協同組合への視察を通じて、課題や問題点などを洗い出し、受入に向けた準備を整えていく。
- ・外国人受入についての基礎知識を学ぶ。（在留資格の変更申請、支援業務、法令、受入体制構築、生活環境など）
- ・海外送出国等の実情把握と情報収集を行う。国籍による文化・風習などを理解し、受入農家で問題が発生しないように努める。（ネパール、インドネシア、フィリピン、カンボジア、タイ、スリランカなど）

( えらぶ島づくり事業協同組合 )

事業実施期間 令和7年度<産地間連携等推進タイプ>

( 鹿児島県 (沖永良部島) )

令和6年度補正  
雇用体制強化事業

【もともと地域で抱えていた課題】

- ・**深刻な労働力不足と人口減少**: 農業従事者率が33%と高い一方で、人口が30年間で25%減少し、求人への応募が極めて少ない状況です。
- ・**マッチングのミスマッチ**: 昨年度は個人援農者を募りましたが、農家の「長期就労希望」と労働者の「短期希望」が合わず、事務局の調整負担も過大となりました。
- 【取組の概要・コンセプト】
- ・**特定技能外国人の産地間リレー**: 繁閑期の異なる他産地（北海道、群馬、長野、兵庫等）の団体と連携し、特定技能外国人を一度に長期間確保する体制へ転換しました。
- ・**受入体制の専門化と内製化**: 専門家による内製化研修を実施し、適正な制度運用能力を組合内で養うとともに、外国人臨時職員の雇用により通訳や生活支援の質を向上させます。

実施主体の構成員

- ・えらぶ島づくり事業協同組合（事務局）
- ・和泊町、知名町、永野育八、永野大吉、（株）大豊、安田龍太、（有）ナチュラル、三島生康、（株）スエカワFarm、伊集院猛、上村英樹、芋高優、田中農園、遠藤園芸

協力機関・連携先等

- NPO法人やくも元気村、（株）百章、海士町復業組合、智頭町復業組合、（株）アグリナジカン、北海道エア・ウォーターアグリ（株）、（株）北海道グリーンパートナー、婦恋キャベツ振興事業協同組合、佐久アグリネット協同組合、（株）丹波篠山たけし農産

設定した成果目標・目標に対する進捗状況

【令和8年2月途中経過】

**鹿児島県沖永良部島**：目標45人に対し、現状55人の確保を見込み、充足率122%を達成（前年度96%より改善）。

**北海道道南地区**：確保数25人を目標とし、充足率88%。

**京都府丹後地域**：確保数15人を目標とし、充足率73%。

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握(地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

- ・令和6年度に実施済です。

イ 産地内での労働力確保・育成

- ・**外国人求人サイトの活用**: 株式会社YOLO JAPANを通じて、外国人向けの求人募集記事を掲載しました。
- ・**臨時雇用職員の採用**: 特定技能外国人の生活・仕事面をサポート（通訳や行政手続同行等）するため、外国人材を臨時職員として雇用しました。

( えらぶ島づくり事業協同組合 )

事業実施期間 令和7年度<産地間連携等推進タイプ>

( 鹿児島県 (沖永良部島) )

令和6年度補正  
雇用体制強化事業

## 今年度の取組み内容

### ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

**既存連携の継続:** 前年度に連携した北海道道南地区、京都府丹後地域、島根県海士町、鳥取県智頭町等の各団体と、発生ベースでの労働力融通に関する情報共有体制を維持しました。

**特定技能外国人の産地間リレー構築:** 短期・個別対応による事務局負担とミスマッチを解消するため、冬場が農閑期となる他産地の「特定技能外国人」を一度に長期確保する「産地間人材リレー」を主軸とした体制へ転換しました。

**新規連携先の開拓:** 北海道帯広市、群馬県嬬恋村、兵庫県丹波篠山市、沖縄県石垣島・宮古島の各団体・農家を訪問し、繁閑の差異を利用した人材リレーについて合意に至りました。

### エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

昨年度援農に参加した労働者のリスト（データベース）を活用し、自産地への直接的な誘致活動を実施することで、効率的な確保を図ります。

### オ 農業の「働き方改革」への取組

- 内製化研修の実施:** 特定技能外国人の適正な受入・運用のための内製化研修を専門家（行政書士）により実施しました（7月～2月）。
- 啓蒙活動:** 嬬恋キャベツ振興事業協同組合の事務局長を講師に招き、島内農家向けに産地間人材リレーに関する研修会を開催しました。  
特定技能外国人の受入心得、国籍別の留意点やトラブル対応、住環境の法令確認等を指導しました。

( えらぶ島づくり事業協同組合 )

事業実施期間 令和7年度<産地間連携等推進タイプ>  
( 鹿児島県 (沖永良部島) )

令和6年度補正  
雇用体制強化事業

## 本事業取組みにおける成果項目

### ・特定技能産地間人材リレー体制の構築と転換

前年度の課題であった「短期・個別対応による事務局の過重負担」を解消するため、冬場が農閑期となる他産地（北海道、群馬県嬲恋村、長野県佐久市、兵庫県丹波篠山市等）の特定技能外国人を長期確保する「産地間人材リレー」へ主軸を転換し、効率的な労働力確保を確立しました。

### ・事務局の特定技能外国人サポート体制の強化

行政書士等による内製化研修を通じて、特定技能の適正運用能力を向上させるとともに、外国人の臨時雇用職員を採用することで、母国語によるガイダンスや生活支援が可能な体制を整えました。

### ・労働力充足率の向上（目標達成）

鹿児島県沖永良部島において、前年度の充足率96%を上回る充足率122%（確保数55人）を達成し、農繁期（サトウキビ、花卉、馬鈴薯）の安定的な人材供給を実現しました。

## 次年度以降の取組み内容

・産地間連携による「人材リレー」の定着 北海道、群馬県嬲恋村、長野県佐久市、兵庫県丹波篠山市の各連携先との間で、送出し・受入れ条件（時期・人数・雇用条件）をパターン化した「年間スケジュール」の運用を定着させ事務局負担を低減させるとともに、受入農家への継続的な指導（住環境整備やトラブル対応等）を通じて、特定技能外国人に「安心して働ける産地」としての魅力を高め、安定的な人材リレーを確立させます。

### ・データベースに基づく戦略的・直接的アプローチの展開

これまでの日本人ワーカーリストを「人材データベース」へと昇華させ、単なる連絡先管理に留まらず、個々の作業習熟度、受入農家との相性、就労希望時期、生活面の要望等を詳細に記録・蓄積します。このデータを基に、自産地の農繁期（12月～4月）の3～4ヶ月前から対象者へ直接アプローチを行い、早期の就労意向確認とマッチングを実施することで、確実な労働力確保に繋がります。